



Y-SAPIX、SAPIX 小学部・中学部、
プリバートの生徒およびその保護者が
会場に集まった



「GCSY」の参加レポートを行う杉本彩
緒さん(左)、瀧川晃弘さん(右)

1部の冒頭で挨拶する高宮敏郎 SAPIX・代ゼミグ
ループ共同代表。「グローバル社会で求められる力
は《多様性》によって生み出される」

8月24日(日)@代々木ゼミナール本部校 代ゼミタワー

YGC Summer Seminar

8月24日(日)に代々木ゼミナール本部校 代ゼミタワーで開催された
「YGC Summer Seminar」の様子をレポートする。

グローバル社会で求められる
多様性

この日のセミナーは、第1部 GCSY
2014 at Harvard 報告会、
第2部 YGC Academic
English Program 説明会
という構成で行われました。YSAPI
X生や SAPIX 小学部、中学部、プ
リバートに通う生徒と保護者が多数ご参
加いただきました。

第1部 GCSY 2014 at
Harvard 報告会の「GCSY」
とは「Global Citizens
Summit for Youth」の頭
文字で、アメリカのNPO法人GCI
(Global Citizens
Initiative)が今年8月2日
から1週間にわたり主催したプログラム
です。世界各国から24名の生徒が集まり、
1週間かけて「自由と平等」について、
英語で討論やプレゼンテーションを行
いました。

第1部の冒頭で高宮敏郎 SAPIX・
代ゼミグループ共同代表より「グローバ
ル社会で求められる力」をテーマとした
挨拶が行われ、アメリカで上場している
時価総額の大きい企業トップ25のうち、
アップルやグーグルなど15社が移民およ
びその2世による創業であること、名門・
スタンフォード大学では「学生の多様性
重視」をアドミッション・ポリシーに掲
げ、アメリカの50州すべてと世界80カ国
から学部生を集めていることから、
「アメリカの強みはその多様性にある」
と分析し、「グローバル社会で求められ
る力は《多様性》によって生み出される」
と締めくくりました。

自由度の高い学びの背景に責
任感と自己主張を育む環境

続いて、マサチューセッツ州周辺6大
学のキャンパスツアーおよび説明会の視
察と、「GCSY」の引率を担当した中
川芙美子先生からの報告に移りました。
視察報告では、ハーバード大マサチュー
セッツ工科大、ブラウン大、ボストンカ
レッジ、ボストン大、ウェルズリー大の

GCSY 2014 at Harvard 参加者にインタビュー!!

GCSYでできた世界とのつながりは 今も大切にしています。

瀧川 晃弘さん(高校1年生)

1636年創立という北アメリカ最古の大学だけあり、ハーバード大学は伝統を感じさせるたまたまでした。世界的に知名度の高いこともあり、大勢の観光客の姿も印象に残っています。自由時間の合間に、フランス・アメリカからの参加者と社会保障について話して、それぞれの違いについて理解が深まりました。こうした機会があるのもGCSYならではの、貴重な体験でした。ディスカッションでは他国の参加者は1人で何度も発言をするなど積極的で、自分も見習いたいと思いました。GCSYを終えて2週間以上が経ちましたが、世界中の参加者たちとの連絡は今でも取り合っています。



ディスカッションを通して 海外の参加者との交流を深めました。

杉本 彩緒さん(高校1年生)

初めてのアメリカ行きで多少の不安もありましたが、事前に海外の参加者たちとフェイスブックを通じて連絡を取り合っていたおかげで、本番ではみんなとのコミュニケーションもスムーズでした。自由時間に日本語を勉強している方に日本文化について説明したり、逆にディスカッションや講義で私がいま分らなかったことを教えていただいたりと、交流を深めることができました。グループでテーブルを囲んで行った、詩や神話をテーマとしたディスカッション、「核廃絶」のテーマで行ったグループプレゼンテーション、それぞれ英語で苦労もしましたが、良い思い出です。



CHECK! Global Citizens Summit for Youth(GCSY)とは?

審査を経て世界から24名の高校生が集い、1週間をかけて未来のリーダー養成を目指すさまざまなワークショップを英語で行う。1人の教員と少人数の生徒が楕円形のテーブルを囲み、質疑応答を活発に行う「ハークネス法」によって学ぶ手法を探っている。

特別講座 "YGC Academic English Program"

11月 Demonstrating Japanese Culture in English ~世界に発信しよう、日本の文化~
【A日程】11月10・17日(月) 【B日程】11月11・18日(火) <19:00~20:30>

12月 Global Declining Birth Rate and Aging Society ~少子高齢社会の未来~
【A日程】12月8・15日(月) 【B日程】12月9・16日(火) <19:00~20:30>

※ご好評につき、クラスを増設しました。 ※申込方法・申込期間はホームページをご確認ください。

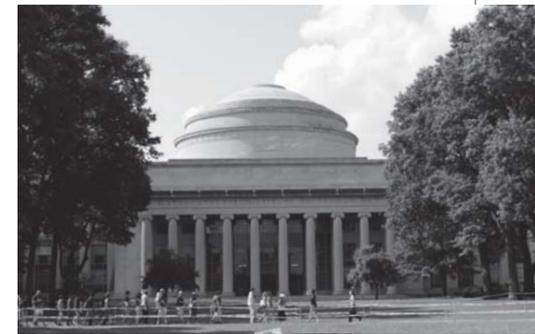
YGC
Y-SAPIX GLOBAL CAMPUS
http://www.ygc.y-sapix.com
☎03-3379-7771
(日本時間 土日・祝日を除く11:00~18:00)

様子を説明したうえで、「視察した大学ではそれぞれ自由度の高い教育を行っているが、それが機能する背景として、学生の責任感と、しっかりと自己主張できる能力を育む環境が整っている」と評しました。さらに、「視察した大学では伝統と独自の考え方に基ついた教育が行われており、こうした海外の大学も進学先として見ていけば、日本の高校生も選択肢がグッと広がるのではないかと提言して、報告をまとめました。

その後、「GCSY」に参加した杉本彩緒さん、瀧川晃弘さん両名による報告が行われました(詳細はP.17を参照)。

ネイティブ並に話すだけではなく英語で「何を語るか」が問われる

第2部 YGC Academic English Program 説明会では、赤嶺修一郎YGC本部長によるプログラムの概要説明、その後、実際の様子を伝える模擬授業が行われました。赤嶺本部長は日本および世界各国が取り



マサチューセッツ工科大学

組むグローバルリーダー養成に向けた動き、日本のこれからの大学入試の変化に触れた上で、「英語をネイティブ並に到達させることだけが目標ではなく、英語で何を語るのかに焦点をあてたい」として、論理的思考力や自ら問いを立てる力、自国の文化・社会および異文化への理解を育む重要性を語りました。

YGC(Y-SAPIX Global Campus)は来春から海外大学進学のための講座をスタートさせますが、この日説明されたYGC Academic English Programはその準備講座という位置づけです。実施会場はYGC代々木キャンパス(最寄り駅JR代々木駅・

小田急線南新宿駅)。今年9月から来年の2月まで、月2回×6カ月の全12回で(※)、独自のテキストおよび海外の映像授業を用いて、各月ごとに設定されたテーマについてディスカッションすることで英語力・思考力・プレゼンテーション力の向上を目指します。赤嶺本部長の話した「英語で何を語るか」を重視したプログラムであることが分かります。

英語力によるクラス分けで英米の高等学校レベルをイメージ

同プログラムで特徴的なのは、対象の中学3年生と高校2年生を「無学年制で、英語力によって」2クラスに分けるという仕組みです。それぞれ英検準1級以上レベル(授業はすべて英語で行う)、英検2級程度レベル(授業は英語と日本語で行う)というクラス編成です。

同プログラムの授業担当者の解説によると、「生徒を中心に意見が活発に飛び交う講座」で、「世界の中の自分の立ち位置を見つめ直すことから始まり、少し難易度の高い社会的なテーマを論理的に

考え、英語で自信を持って表現できることを目指す」としています。

この日の模擬授業では、スライドを交えて会場の参加者を対象に本番さながらのやりとりが行われました。具体的には、講師が「グローバルゼーションとは?」「日本人の特質は何か?」などの問いを参加者に投げかけ、英語を中心とした質疑応答を通じて理解を深めていくという流れで模擬授業は展開されました。参加者も実際に模擬授業を体験したことにより、「英語力・思考力・プレゼンテーション力の向上」を目指す同プログラムの趣旨は十分伝わったものと思われる。

※116,480円(税込)/月ひと月のみの受講も可能。



英語と日本語を交えて活発な質疑応答が飛び交った模擬授業